

第 20 回 総合防犯設備士資格認定試験問題

A問題解答例



公益社団法人 日本防犯設備協会

A 問題 - 1 (セキュリティについて1)

①	リスクのランク付けと要対策リスクの明確化
②	対リスク姿勢と対策に対する考え方
③	ランク毎の対策程度
④	事件・事故に対する姿勢
⑤	損失補填に対する考え方
⑥	社会的責任遂行姿勢と責任の所在及び倫理
⑦	監視・監査の活用の仕方
⑧	セキュリティウェアネスに対する考え方
⑨	セキュリティ組織の構築
⑩	資産の分類と統制
⑪	事業継続管理(BCM)
⑫	コンプライアンス(遵法)の徹底

A 問題 - 2 (セキュリティについて2)

①	事故	脅威の例:爆発、火災、公害、環境汚染・破壊など
②	テロリズム	脅威の例:誘拐、人質、爆破、サイバーテロなど
③	犯罪行為	脅威の例:窃盗、殺人、放火、詐欺、贈収賄、脱税など
④	放漫経営	脅威の例:倒産、損害賠償、信用失墜、人材流出など
⑤	国際化	脅威の例:異文化と異価値観、破壊活動、カントリーリスクなど

A 問題 - 3 (防犯の理論)

③	運用管理	従業員、役員、派遣社員、来客、ビル管理要員、ベンダーサービス、納品業者など当該施設に出入りする人たちの出入口や施設内でのルールを対象者別に検討し運用上の動線を決める。
⑤	内外への告知	看板に『ひたたくり注意』や『空き巣に注意』などではなく『住民のみなさまのご協力で、チカンを逮捕できました。ありがとうございました。』というようなチカンばかりでなく窃盗などの犯罪企図者にプレッシャーを与える看板で、犯罪を起こさせないぞという強い意志表示をする。

A 問題 - 4 (防犯対策の考え方)

	4原則	説明
①	領域性の確保(領域性の強化)	犯罪企図者などの部外者の存在が不自然に見え、社会的な抑止力が働くような雰囲気を作ること
②	対象物の強化	侵入口となる窓や出入口が突破されないように強化すること
③	監視性の確保	犯罪企図者が見られている状況を作ること
④	接近の制御	侵入口となる部分へ容易に近づけないようにすること

A 問題 - 5 (防犯設備の構築)

①	連続解錠時間設定機能 設定した時間帯は連続解錠状態にする機能
②	二人在室機能(一人在室禁止機能) 入室者が一人にならないように制御する機能
③	アクセス時間制御機能 入室可能な時間帯を設定しその時間帯は入室を可能にする機能
④	共連れ防止機能 許可者に続いて不許可者が入室できないようにする機能
⑤	インターロック機能 一つのエリアに対し二つの扉を二重に備え、同時に解錠しないように制御する機能
⑥	最終退出機能 警戒開始・照明消灯・空調停止・エレベーター不停止などの制御をする機能

A 問題 - 6 (防犯設備の設計)

ネットワークカメラシステムの特徴

①	映像の高画素化(高解像度化)が可能で、200万画素以上のものもある。
②	機器の増設が容易である。
③	スイッチングハブの適切な配置で配線の引き回しの数が少なくすむ。
④	PoE 機能付きスイッチングハブを使用すると、LAN ケーブルを利用してカメラに電源を供給することができる。
⑤	LAN ケーブルの最長伝送距離が100mのため、長距離伝送のためには複数段のスイッチングハブを経由する必要がある。
⑥	他の建物の映像を直接監視するなどの広域化が容易である。
⑦	配線で接続しただけでは映像は見えず、各種の設定が必要となる。

ネットワークカメラシステム構築上の注意

①	一般的にNTSC方式のカメラのような国際標準はネットワークカメラ方式にはなく、メーカーの独自規格でつくられているため、異なるメーカーとの互換性は保証されない。
②	使用するインターネットプロトコルがリアルタイム通信を保証していないため、ネットワーク上で多量の画像伝送が行われると遅延が発生する。そのためネットワークを流れるデータ量を考慮し、カメラの接続台数を適正化し遅延を最小限に抑える工夫が必要である。
③	ネットワークカメラでは同じ伝送路上に複数のカメラの画像データが流れるため限界を超えた情報量になるとデータの欠落が発生するおそれがある。そのため表示や記録画像の欠落が発生しないようデータ量を管理する必要がある。
④	伝送路の仮想専用線(VPN)化やデータの暗号化などにより秘匿性を確保する仕組みを構築する必要がある。
⑤	ユーザー認証機能の使用及びユーザーID とパスワードの設定が必要であり、工場出荷時のユーザーID 及びパスワードの設定を変更せずそのまま使用することのないように留意する。
⑥	インターネット網(WAN)に直接接続するものは、電気通信事業法の認定を受けたものを使う必要がある。

A 問題 - 7 (総合防犯監査1)

主体となるもの

①	防犯対策の整備・運用責任を負う組織とその責任者
②	防犯対策の整備・運用方針を決定する組織とその責任者

理由

より正確な現状把握及び実情を踏まえた検討を進めるのに有効であることが多いため

A 問題－8（総合防犯監査2）

	技法の名称	内容(何を確認するのか)
①	レビュー	文書・記録などの監査資料を入手し、内容を確認する。 (内部資料を入手し、内容を確認する。)
②	アンケート	質問書への回答から実態を確認する。 (関係者のセキュリティに対する理解度・認識度を確認する。)
③	インタビュー	担当者などに質問し、状況を確認する。 (関係者の聞き取り調査をし、運用状況などを確認する。)
④	視察 (現調)	業務を行っている場所、状況を見て確認する。 (現地の状況を実際に見て確認する。)

A 問題 - 9（総合防犯1）

	包括罪種	包括罪種の内容
①	窃盗犯	窃盗
②	凶悪犯	殺人、強盗、放火、強制性交等
③	粗暴犯	暴行、傷害、脅迫、恐喝、凶器準備集合
④	知能犯	詐欺、横領、偽造、汚職、背任、あっせん利得処罰法に規定する罪
⑤	風俗犯	賭博、わいせつ
⑥	その他刑法犯	公務執行妨害、住居侵入、逮捕監禁、器物破損等上記に掲げるもの以外の刑法犯

A 問題 - 10(総合防犯2)

	ヒューマンスキル	発揮するため取るべき行動
①	聞き上手なコミュニケーション力	監査対象施設における相手の立場に応じた質問を行い、相手に多くを語らせる。
②	現状認識力	監査対象施設の置かれている状況を多角的にとらえ、ヒアリングについても予め定めた対象範囲内でより多くの人から行う。
③	現状分析力	現場の業務(生活)サイクル(短期、中期、長期)を見極め、現場現物主義で取材を行う。
④	本質的課題を見抜く洞察力	ヒアリングする相手についての立場の違いや、問題点の本質を見抜く。
⑤	防犯対策の構想力	監査対象に最適な解を提示するための技術力向上や知識の習得に努める。
⑥	チームを正しい方向に導くリーダーシップ	全体の雰囲気には流されない正義感と意思をもって、率先垂範で牽引する。
⑦	メンバー全員の力を結集できるマネジメント力	メンバー個々の意見を尊重し、相互に納得できるように意見交換できる場を作り、それらをまとめる方向に導く。